

HA-CROHDE

北海道臨床教育学会

The Hokkaido Association of Clinical Research on Human Development and Education

北海道臨床教育学会 第6回大会

日時：2016年7月16日(土)～17日(日)

会場：札幌学院大学 第1キャンパスA館3階
(江別市文京台11)



JR利用

札幌駅（江別、岩見沢方面行き）発⇒
大麻駅下車

所要時間：快速約12分+徒歩10分

バス利用

新札幌バスターミナル（JRバス10番乗り場・夕鉄バス12番乗り場）発⇒学院大正門前、または北翔大学前：札幌学院大前下車

所要時間：乗車約10分+徒歩1～3分

自家用車利用

1号館手前の駐車場をご利用下さい

大会参加費（会員・非会員・学生）：2000円

懇親会当日参加費：5000円

（7月8日までに振り込みの方は3500円）

学会事務局

〒002-8502 札幌市北区あいの里5条3丁目 北海道教育大学 宮原順寛研究室気付
北海道臨床教育学会 事務局

メール jimukyoku@hokkaido-rinkyoo.com

学会ホームページ <http://hokkaido-rinkyoo.com/>

大会当日の上記宛の連絡に対しては
対応することができません。

発表資料等の事務局への事前送付は
ご遠慮ください。

大会スケジュール

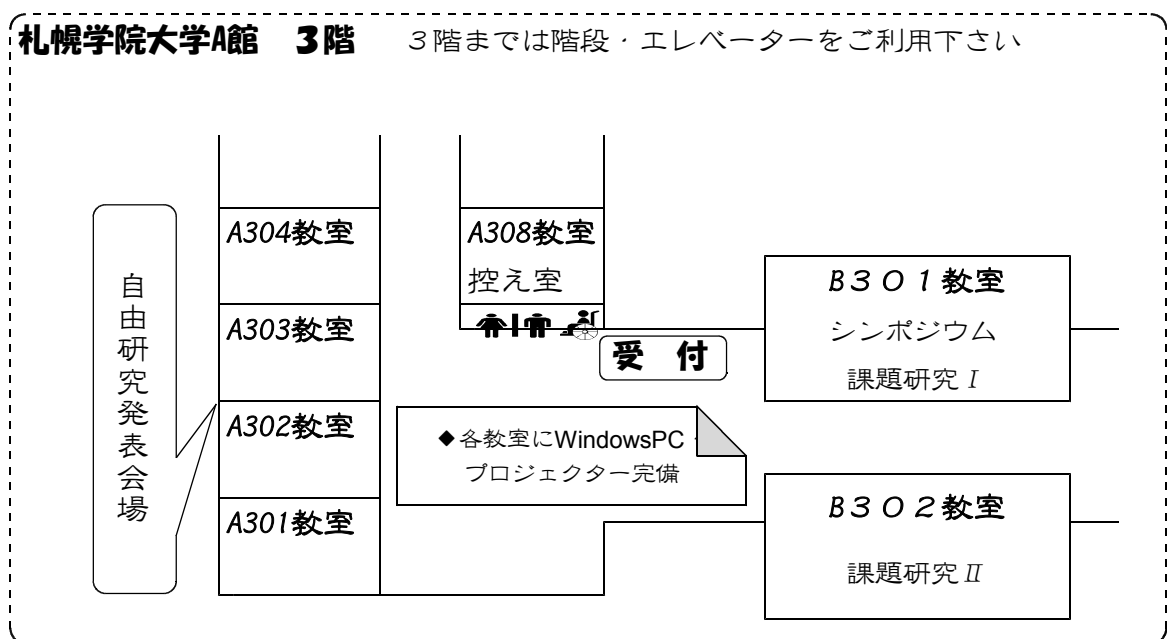
大会1日目：7月16日（土）

| | | | | | | | | | | | |
|----|----------|-------|--|-------|-------|---------|-------|-----|-------|--|-------|
| | 13:00 | 13:30 | | 16:30 | 16:45 | | 17:45 | | 18:00 | | 19:30 |
| 受付 | 大会シンポジウム | | | | 休憩 | 自由研究発表Ⅰ | | 懇親会 | | | |

大会2日目：7月17日（日）

| | | | | | | | | | | | | | |
|----|---------|------|----|----------------|-------|----|-------|----|---------|-------|-------|--|-------|
| | 9:00 | 9:30 | | 10:30 | 10:45 | | 12:45 | | 13:45 | 14:15 | 14:30 | | 15:30 |
| 受付 | 自由研究発表Ⅱ | | 休憩 | 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ | | 休憩 | 総会 | 休憩 | 自由研究発表Ⅲ | | | | |

会場図



昼食について

大会1日目（7月16日） 札幌学院大学の学内食堂が営業しております。

大会2日目（7月17日） 学内の食堂等の営業はございません。

近隣のコンビニエンスストア等をご利用下さい。

※昼食弁当を事前申し込みされた方は、受付にて引き替えます。

引き替え時間 1日目：受付後～13:30まで 2日目：12:30～13:30まで

■ 大会 1 日目：7月16日（土）

◇シンポジウム……………13:30～16:30 B301教室

＜生（life）＞を伴走する私たちを語る、問い直す ～障害者差別解消法施行から3か月、現場での課題は～

平成28年4月から『障害者差別解消法』が施行され、公的機関では『合理的配慮』が義務化されました。今回のシンポジウムは、この法律を切り口に、新しい法律のもとで1人1人の状況に合わせた伴走をしている（しようとしている）側に身を置く我々について語り、私たち“発達援助者の何かが変わるのか”、“発達援助者は何を变えていけばいいのか”といった明日への展望を見いだしたいと思います。「自分たちは大変だ」「自分たちは疲弊している」と語り合うのではなく、様々な現状の中で発達援助者である自分の明日の姿を思い描きたいとの願いをこめて、ワークショップ型のシンポジウムを企画しました。

＜コーディネーター＞

庄井 良信（北海道教育大学）

中根 照子（釧路市立中央小学校）

＜報告者＞

戸田 竜也（北海道教育大学釧路校）

参加者で語りを深めていくためには、障害者差別解消法(合理的配慮)がどのような内容であるかを正しく知る必要があります。共通した認識の元で話が進められるように合理的配慮導入の背景や概念、求められる配慮事項などを報告していただきます。

小川 央（札幌市児童相談所 前：札幌市教育センター）

障害者差別解消法施行されることが決まってから、障害者の家族の方々の動きや現場での受け入れ体制など、それぞれの立場で法律を受け入れる準備がなされていたことと想像できます。

そこで、この春まで札幌市教育センターで相談業務に当たっていた経験から実際に家族の側から寄せられた声や学校現場から寄せられた声を報告していただきます。

※小川氏の報告の後に、参加者の方々に現場が直面している課題について近くの方々と交流をする時間を取ります

二通 諭（札幌学院大学）

＜生（life）＞を伴走する私たちのこれからを考えて行く明日の姿を思い描くために、どの大学よりもいち早く1人1人の学生（受験生）の状況を受けとめた大学入試や学生サポートを行っている札幌学院大学での取り組みを報告していただきます。

◇自由研究発表Ⅰ（実践事例研究部門）……………16:45～17:45

【第1分科会】 A301教室

士別市の就学相談について～過去6年間の状況～

○大橋 毅士（士別市立士別小学校）

【第2分科会】 A302教室

大震災・原発事故による避難家族への居住地域に根ざした子ども・家族支援
ーフィールドノート素材に「日常化」の中で生じる新たな支援課題を探る

○富田 充保（相模女子大学）

原田 勇（子育てクラブ代表）

【第3分科会】 A303教室

児童養護施設における学習支援活動の成果と課題

○戸田 竜也（北海道教育大学釧路校）

【第4分科会】 A304教室

ムーミン谷のカンファレンス～今、あなたの思いに耳を傾けます

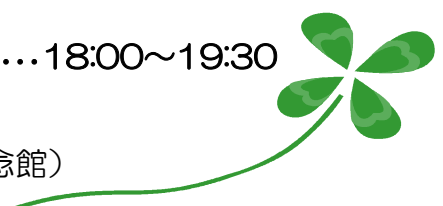
○正武家 重治（札幌市立中央小学校）

畠山 貴代志（北海学園札幌高等学校）

◇懇親会……………18:00～19:30

札幌学院大学第1キャンパス G館（50周年記念館）

レストラン文泉



■ 大会2日目：7月17日（日）

◇自由研究発表Ⅱ（実践事例研究部門）……………9:30～10:30

【第5分科会】 A301教室

〈学校教育リフレクション部会〉 反抗する者から傷つき・もがく生徒へ
ー語りを通して教師の生き方を紡ぎあうー

○野原 竜太（公立中学校教員）

荒木 奈美（札幌大学）

【第6分科会】 A302教室

中学校におけるボトムアップ型の校内研修の試みとその成果

○中村 吉秀（函館市立桔梗中学校）

山口 好和（北海道教育大学函館校）

【第7分科会】 A303教室

多様性を保ちながら当事者としての学校生活のあり方について

○安河内 敏（北星学園余市高校）



【課題研究Ⅰ】 B301教室

子どもの学びと生活を支える実践と地域づくりの学び
～地域臨床教育の可能性～

キーワード：子育て支援、ケア、子どもの貧困、対人援助

2016年は再び子ども・子育て家庭の貧困がクローズアップされ、また「保育園落ちたのは私だ」デモに象徴されるように、母親を中心に子育て支援（子育ての社会化）がいまだに不十分であることが社会問題化し、「一億総活躍社会」を掲げる安倍政権自身がこの矛盾の対応に追われている。一方で、貧困、孤立、虐待など地域の様々な困難を抱える子ども、子育て家庭を地域住民が支える取り組みが広がっている。北海道の教育実践が大切にしたい地域に根ざす発想はあらゆる「ケア」の現場に浸透している。

住民や学生の「アマチュア」が手掛けるこれらの取り組みからは、「プロ」（専門職）と言われる「対人援助」のあり方に問い直しを迫る教訓が得られる。専門職の援助場面では課題アプローチによる啓発に傾倒しがちなのに対して、これらの取り組みは当事者の事情を組んだ個別アプローチで課題解決に協働で取り組んでいる。また、「してあげる」活動に傾倒しがちな「ケア」そのものの問い直しも求められ、（社会的）資源提供から資源創出へ実践の価値がシフトし、当事者に対する「アドボガシー」から「協働の担い手づくり」へ展開する中で多様な人々が暮らせる「地域づくり」への発展が見込める。

北海道臨床教育学会では、全国の臨床教育学に先駆けて Community Based Approach を提唱すべく研究活動の一つの柱としている。今回の課題研究では、地域臨床教育（学）を基礎づけるこれらの実践から固有の論理を引き出す手がかりを様々な対人援助職や実践者、研究者との論議を展開する契機としたい。

<コーディネーター・問題提起>

井上 大樹 （札幌学院大学）

<コメンテーター>

間宮 正幸 （北海道大学）

吉田 圭子 （札幌中学教師）

<報告者>

沢村 紀子（さっぽろ子ども若者白書をつくる会事務局長）

「さっぽろ子ども若者白書」は学校内外のさまざまな対人援助職、市民の手によって、今の札幌市の子ども・若者の生きづらさとその支援の全体像を明らかにした画期的な取り組みである。今回は、白書づくりのプロセスではそれぞれの立場や視点からの実態、課題解決の提起を聞きあい、学びあいについて報告していただきます。

山本 純 （札幌学院大学／教養ゼミナール「地域貢献プロジェクト」担当）

北海道でこども食堂が続々と立ち上がる中、学生と地域住民の協働でつくられた「ここなつ」（江別市）が注目されています。この取り組みは山本氏の教養ゼミナールから派生した「地域貢献プロジェクト」の一つです。大学の正課教育から学生主体の動きを引き出すための教育実践について、経営学の視点も交えて報告していただきます。

【課題研究Ⅱ】

B302教室

臨床教育学における授業研究の意義と可能性

授業の研究は、学校現場では日常的なありきたりの仕事と見なされています。しかし、その一方で、生活指導（生徒指導）や部活動指導や進路指導に教師の時間と労力を割かれて、「この頃は授業の研究をしていない」と嘆く実践家も多くいます。また、「授業研究」を「研究授業」や「授業公開」と混同して、「非日常の出来事であって、自分には関係ない」と勘違いしている事例もよく見られます。

このような時勢であるからこそ、臨床教育学の重要な研究領域として「授業研究」を広く深く拡張して捉えることを提起します。単に教科内容解釈とその効率的な教授法の開発に留まる授業研究観を超えなければなりません。つまり、授業での子どもたちの具体的な姿を語り合うことを共通の基盤としながら、科学・芸術・文化的な認識の深まりと民主的な人格の形成を目指して、子どもたち一人ひとりのものの見方考え方や行動の仕方の違いを理解し、そこに寄り添いながら協働的な学びの世界を模索していく授業研究が今こそ求められています。さらに附言すれば、単に指導力を向上させるための授業研究という文脈だけではなく、教師人生における思慮深い省察の契機として授業研究の場を捉え直して語り合う必要があります。

これらについて語り合うために、この課題研究Ⅱの前半では、設定趣旨説明の後に、3人の登壇者からの提案を予定しています。三井哲会員からは、授業研究を梃子にして協働的な学習の取り組みを行った学校づくりについて発表していただきます。続いて、松田慎一郎会員からは、三井校長のもとで小学校における授業づくりと学級づくりの具体的な展開を担った経験等について発表していただきます。そして、守屋淳会員からはこれらの実践と授業研究の理論的な背景と意義について発表をしていただきます。なお、この登壇者的人選は、盛況であった昨年度の第5回大会の自由研究発表の第1分科会をもとに発展的に再構成しました。

課題研究の後半では、これらの提案をもとに、学校教育に直接に携わっている方だけではなく、学校教育を取り巻く様々な対人発達援助の仕事をしている方等からの賛否両論の質疑応答を踏まえて考究を深めたいと考えています。多くの皆様の参加と多様な立場からのご発言をお待ちしています。

<コーディネーター>

守屋 淳（北海道大学）

宮原 順寛（北海道教育大学）

<登壇者>

宮原 順寛（北海道教育大学）

「なぜ臨床教育学は授業研究についての省察を必要とするのか」

三井 哲（札幌市立北白石小学校）

「授業改善が学校を変える～主体的で協働的で深い学び」

松田 慎一郎（札幌市立美しが丘緑小学校）

「一人一人を『学びの主人公』にするために」

守屋 淳（北海道大学）

「子ども一人ひとりの、そして教師の、学びと成長のために」

◇休憩.....12:45~13:45

※昼食弁当を事前申し込みされた方は、13:30までに受付にてお受け取り下さい。
休憩場所は、受付前フロア・A318教室となっております。

◇総会.....13:45~14:15 B301教室

◇自由研究発表Ⅲ（一般研究部門）.....14:30~15:30

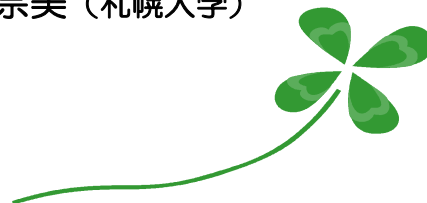
【第1会場】 A301教室

子どもたちが学びに向かう姿の検討

○今田 章子（北海道大学大学院）

アクティブラーニング再考——モノ的問いからコト的問いへの転換のために

○荒木 奈美（札幌大学）



【第2会場】 A302教室

熟年教師が語る児童の「見えない能力」の教育と評価

○植木 克美（北海道教育大学）

地方創生による子育て支援施策の転換——臨床教育学からみえる課題

○井上 大樹（札幌学院大学）

